

慶びを重ね合わせる縁起のもの
結婚するお二人の約束をかたちに
ご両家の弥栄を願う結納

ご結納飾り

結納品は結納の儀式で贈る縁起物です。古来は現物での受け渡しをしたものですが、現在は美しい水引細工が施されたセットを用いることが主流になっています。品目は割り切れない奇数とします。当ホテルでは、七品目、九品目、受書三品目を主に取り扱っております。昨今では多くの方が婚約指輪を結納の儀式で用意されますので、その場合は指輪を含めて目録にご記載させていただきます。

結美和(指輪)	子生婦	寿留女	友白髪	勝男節	家内喜多留	御帯(結納金)	寿栄廣	長熨斗	茂久録
花嫁の大切な「婚約指輪」のことです。結婚指輪の場合同じです。	「子宝に恵まれるように」という願いが込められたもので、子どもが生まれる喜び、「よろこぶ」に通じたお祝い事には欠かせない食品です。	古来よりお祝い事や儀式などには付き物の肴です。「囃めは噛むほど味のあるお嫁さんになってほしい」という意味があります。	二人が共に白髪になるまで、年老いるまで、いつまでも仲良く添いとげられるように、という願いをこめて贈られます。 高砂(老夫婦の人形)※主に西日本側)	鯉節は「勝ち魚」と考えられており、おめでたい儀式に用いられる代表的な魚です。 松魚 勝男節 勝男武士 松魚節 梅	「家の中に喜び事が集まり、いつまでも留まっているように」という意味のお酒を入れる柳樽です。御酒料として包むか日本酒を用意します。 家内喜多留 喜多留 角樽 柳樽 多留 竹	御帯料 帯地料 小袖料 結納料 宝金 松	喜びが「末広がりになる」、「夫婦ともに末永く幸せに」という願いをこめた、おめでたい白扇のこと。ペアで贈ります。 寿栄廣 寿恵広 末広 末廣 亀	鮑を「長く延ばす」ことから、不老長寿の薬ともされ、海のものや日本では、古来よりおめでたい儀式に必ず添えられます。 熨斗 長熨斗 納幣熨斗 鶴	結納品の内容を記載したものです。 (品目のあて字)茂久録 目録

◆ 九品目 ￥29,700

目録・長熨斗・金包・末広・友白髪・子生婦・寿留女・勝男節・家内喜多留

◆ 七品目 ￥24,200

目録・長熨斗・金包・末広・友白髪・子生婦・寿留女

◆ 受書三品目 ￥12,100

目録・長熨斗・末広

※筆耕料・消費税を含みます

結納セットとは別途ご用意いただくもの

家内喜多留(日本酒)

ホテルで手配させていただく日本酒は一升瓶2本 ¥5,400(税込)~です。(銘柄により金額が異なります) お好みの銘柄をご希望の場合は前日迄にご持参いただいております。

風呂敷

それぞれのご結納品をお包みするための風呂敷は、三中 ¥2,530(税込)・四中 ¥3,740(税込)となります。ご自身でご用意される方は、当日ご持参いただいております。お忘れのないようお願い申し上げます。

酒肴料

酒肴料をお包みする熨斗袋 ¥1,000(税込)となります。(結納品と一緒に申し込みください)

※ご両家様のお支払いが折半の場合は不要でございます。詳しくはスタッフにお尋ねください。



※画像はイメージです

「関東式」と「関西式」

関東式では結納品リストの「目録」を結納品のひとつに数えますが、関西式では別途用意して、結納品のひとつとしては数えないのが一般的です。並べ方も、関東式と関西式は異なります。結納返しも結納金に対して関東は半返し、関西は1割程度が一般的ですが、地域や家系で異なるため両家できよく話し合っておくことが良いとされます。

ご会食プラン

御結納式後の御両家様のお祝いの会食に、和・洋からお選びいただけるプランをご用意しております。

◆ 寿プラン お一人様 ￥18,000

◆ 鶴プラン お一人様 ￥15,000

◆ 亀プラン お一人様 ￥13,000

当ホテルにて、ご披露宴をお申込みの場合は8名様まで、上記プランの半額となります

各プランに含まれるもの お料理・お飲物・桜湯・卓上装花・お席料・消費税

お料理・・・和食(会席料理)または洋食(フルコース)よりお選びください。

お飲物・・・乾杯用スパークリングワイン、2時間のフリードリンクをご用意しております。(ドリンクメニュー：ビール / ウイスキー / 日本酒 / ソフトドリンク)

桜湯・・・結納や結婚など慶事で振る舞う、「桜湯」をご用意しております。

卓上花・・・テーブルに飾られる装花です。お帰りの際にお持ち帰りいただけます。

消費税・・・会場内でのお食事につき、10%の消費税が含まれております。

記念写真・美容・着付・その他について

◆ 記念写真 六ツ切1カット ￥19,800

◆ 着付料 振袖着付 ￥11,000

◆ 美容料 ヘアセット ￥3,300~



ご会食の卓上セットイメージ

「桜湯」の由来と意味

おめでたい席では、お茶を避ける風習があります。お茶(煎茶)には、その場だけ取り繕って誤魔化す、茶化す、茶を濁すというフレーズでも使われるため、縁起事では煎茶を避け、湯の中で花開く「桜湯」を振る舞います。桜の木は古来より、安産・子孫繁栄の神様(木花咲耶姫より)、五穀豊穡の田んぼの神様として神聖視され、縁起がよい花木とされていました。

※諸説あり・簡略として

※表記する料金は全て消費税が含まれております

留袖着付 ￥8,800

メイク ￥5,500

御結納取り交わし

御結納式から会食会までの流れ・配置・進行について、「略式」の取り交わしを例としております。

御結納式の配置

結納の主体が「本人」の場合は上座から「本人→父親→母親」(※右図)となり、結納の主体が「家」の場合は「父親→母親→本人」となります。

御結納式の流れ

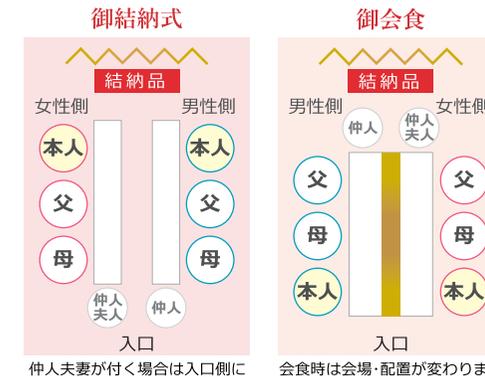
仲人を立てる場合は、仲人夫婦が進行役を努めますが、仲人を立てない場合は男性側の父またはホテルスタッフが進行させていただきます。男性側(婿取りの場合は女性側)から入室し、次に女性側が入室し、全員が揃ったら着席します。

【自宅の場合】男性側が女性の自宅へ結納品を持っていき、和室なら床の間の前、洋室ならテーブルの上に男性側全員で飾ります。この時、女性側は別室で待機します。飾り終わったら、男性側の母が女性側を呼びに行きます。この場合の進行役は男性側の父が執り行います。最後に女性側より桜湯と干菓子でもてなします。

- 1 始めの挨拶
- 2 男性側から女性側へ「結納品」を渡す
- 3 女性側は結納品の「目録」を確認し、「受書」を渡す
- 4 男性側は「受書」を確認する
- 5 締め挨拶

御結納式のあとは御会食となります。その場合、御席の配置は変わります。(※右図)

会場レイアウト



結納式で使う口上(こうじょう)

結納式では独特の口上を使いますので、ポイントを押さえておくとうれしいです。
●「本日はお日柄もよく」(天気ではなく六曜のことです)
●「幾久しくお納めください」
●「幾久しくお受けいたします」縁起をかついだ言葉です。
【注意】「忌み言葉」とされる「切れる・終わる」「重ね重ね・いよいよ」は結納では使わないように注意しましょう。

